

第 73 回国連総会 結核に関するハイレベル会合

加藤大臣 政府代表演説

2018 年 9 月 26 日

議長、国連事務総長、ご列席の皆様、本日、発言を行う機会を得られ光栄に存じます。

結核は、今なお、世界で年間 160 万人もの尊い命を奪っています。世界の人的交流が進む今日、結核は、一国の問題ではなく、国際的に協調して取り組まなければならない問題であり、結核根絶に向けた国際社会の決意を新たにすべき時です。

我が国では、1930 年代以降戦後まで結核が蔓延し、死亡原因の第一位を占めるなど、国民病となっていました。俳句の名手として知られた正岡子規も、病に冒されながらも素晴らしい句を残し、結核により短い生涯を閉じました。その後日本は、国を挙げて官民で結核対策に取り組み、結核死亡率を急激に減少させ、10 年間で死亡率を 4 分の 1 にするという世界に類のない成果を達成しました。

この成功には、コミュニティにおける予防接種、健診、結核治療の進歩が寄与しました。これに加え、国民皆保険制度及び結核の治療費公費制度により、診療へのアクセスの改善や自己負担が減少し、誰もが治療を受けられるようになりました。これは、我が国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）のひとつの成功例とも言えます。

このような経験を有する我が国は、「人づくり」を中心に据え、50 年以上前から、結核対策のための人材育成等国際的な協力を継続的に取り組んできました。近年では「人間の安全保障」の理念を掲げ、国際機関を通じた結核対策に資金と知見を提供しています。

2016 年の伊勢志摩サミットの際、私達は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の第 5 次増資として当面 8 億ドルの拠出を表明しました。また、来年には次期増資会合が予定されています。本会合を契機として、国際的なコミットメントが更に高まることを期待しています。

我が国は、多剤耐性結核治療薬や検査法の開発という技術面でも世界の結核対策に大きく貢献しており、長期間にわたる治療を適切に完遂するための保健システム強化に引き続き各国とともに取り組んでいきたいと考えています。

我が国は、本日の会合の成果を、来年我が国で開催する G20 サミット、TICAD7、そして、来年の国連 UHC ハイレベル会合及び初の SDGs 首脳級会合等、一連の国際会議につなげていきたいと考えています。

この会合において、実践的な議論が行われ、各国の結核対策が強化されることを期待しています。

ご清聴ありがとうございました。